

教授

溝部 昌子

■ 学歴

1. 2002 年 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 博士課程単位取得退学

■ 学位

1. 1999 年 修士（保健学）
2. 2003 年 博士（保健学）

■ 研究分野

1. 臨床看護学 Clinical Nursing
2. 高齢者看護学 Geriatric Nursing
3. 血管看護 Vascular Nursing
4. 異文化看護 Transcultural Nursing 文化能力 Cultural Competency
5. 看護管理学 Nursing Administration

■ 研究キーワード

1. 血管看護、血管障害患者の看護方法、高濃度炭酸水を用いた足浴
2. 看護エコー、深部静脈血栓症予防、排泄ケアと看護エコー
3. 文化看護、異なる文化背景対象への看護、文化能力開発プログラム
4. タクティールケア、触れる看護

■ 研究課題

1. 看護観察へのハンディエコーの活用成果とスキル修得に関する研究
2. 血管看護学教育の体系化に関する研究
3. グラフィックレコーディングの学修活動やヘルスコミュニケーションに及ぼす影響に関する研究
4. タクティールケアの手技の言語化と修得方法に関する研究
5. 文化背景が異なる対象の看護、看護師の文化能力の醸成に関する研究

■ 担当授業科目

1. 老年看護学実習 （通年）（看護学科）必修
2. 看護総合演習 （通年）（看護学科）必修
3. 看護総合実習 （通年）（看護学科）必修
4. 老年看護学概論 （前期）（看護学科）必修
5. 老年看護学演習 （前期）（看護学科）必修
6. 看護研究の基礎 （前期）（看護学科）必修
7. 老年看護方法論 （後期）（看護学科）必修
8. 国際看護学 （後期）（看護学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【老年看護学概論】2 年生前期 ・ 2023 年度も採用教科書を見直し、分量が少ないものに変更した。 ・ 老年看護学の基礎知識、加齢性の心身変化を第 1 ～4 回で集中的に扱い、2 回の小テストを実施することで、早い段階で知識に触れるような計画とした。 ・ 高齢者の生活に潜む危険については、加齢性の心身変化を関連付けるよう、方法論から概論に移動した。危険予知トレーニングを用いて講義・ディスカッションしたのち、学生の祖父母の自宅についてグラフィックレコーディングの作成を課題とした。 ・ 小テストにより、老年看護学で記憶すべき事柄がわかり、定期テストの準備を行えたものとする。 ・ 全体として、身近な事柄から高齢者看護の将来について検討できる構成となった。
2.	授業科目名【老年看護方法論】2 年生後期 ・ 前期の概論同様に、平易な記述の分量が少ない教科書を用いた。 ・ ゴードンの健康の 11 パターンの枠組みに沿って、高齢者看護に必要な観察、アセスメント方法、看護ケア技術を教授した。 ・ 看護師国家試験や老年看護学実習の内容を鑑みても、老年看護学教育構成内容が過不足ないものとなった。 ・ 配布資料をパワーポイント A41 ページに 2 枚印刷、カラー両面としたことで、様々なスケールや資料をそのまま判読し、活用できるようになった。 ・ 老年看護方法論での内容は多く、複雑であるため、定期試験よりも課題提出の評価配分を多くした。これにより、單元ごとの取り組み方を全員が取り組むことができ、学修方法の習得につながったと考える。
3.	授業科目名【老年看護学演習】3 年生前期 ・ 看護過程のアセスメントでは、健康パターンごとの講義で、記載すべき要点を示し、学生はそれに基づいて自身で課題を完成し、翌週提出した。グループごとにボックスを用意し、グループでまとめて提出・返却した。 ・ 提出時には、評価表にセルフチェックし、教員からは 4 段階評価を付し返却した。 ・ 看護計画 EP はグラフィックレコーディングで制作した。 ・ 未提出や提出遅れはなく、講義であらかじめ要点を示していたことから、課題に取り組む時間は従来に比べて短縮され、負担は軽減されたと考える。学生によって取り組みや成果に差があった。看護計画の EP が具体的に記載されていた。
4.	授業科目名【看護研究の基礎】3 年生前期 ・ 感染予防対策上、特に制限のない状態での開講であり、従来通り、質問紙調査を前提とした研究計画の策定、調査の実施、研究成果報告会を実施した。 ・ 授業時間内で、質的データ分析、量的データ分析と図表の作成、調査の実施、エクセルデータの集計、研究に必要な文書の作成を行うことで、グループワークに伴う負担や学生間トラブルや少なかったと考える。 ・ 研究のプロセスで必要となる作業について、情報検索、研究計画書の作成、研究説明文書の作成などを、実践的に学ぶことができ、研究についての基礎知識の習得につながったと考える。

	・内容が少ない教科書を採用していたが、補足資料や説明が多く必要になったため、今年度、再度教科書を変更した。
5.	授業科目名【国際看護学】2年生後期・選択 ・外部講師の講義をオンデマンドで取り入れ、英国における看護師資格取得や勤務、ボランティアの仕組みや実際について講義を受けた。看護では技術や知識だけでなく、制度や価値観によりことなるものであること、様々なキャリアの発展があることなど見聞を広めることができた。 ・国際看護の基礎知識としての講義のほかに、「聖地巡礼」、「映画バベル」を教材として、暮らしている場所による人々の文化的背景や価値観の違いなどについてディスカッションし、検討することができた。
6.	授業科目名【看護総合演習】4年生通年 ・臨地実習からの学びを深めるために「ヘルス・エスノグラフィー」を輪読し、研究方法について学んだ。 ・看護総合実習では、タクティールケアまたは深部静脈血栓症予防のための圧迫療法をテーマとしていたため、文献検討、手技の修得をおこなった。 ・タクティールケアまたは圧迫療法について、オープンキャンパス模擬講義において、来学した高校生に対し、デモンストレーションを行った。 ・市民講座「あなたのあしはお元気ですか」に参加した中高年に対し、血管マッピング支援を行った。
7.	授業科目名【看護総合実習】4年生通年 ・A病院では、女性患者2名に対し、複数回タクティールケアを行った。心身の変化といった看護の成果が実感できる実習となった。 ・B病院では、血管外科医の臨床講義、外来見学、検査の見学、手術見学、術前術後の看護の見学を行った。血管障害とその治療、患者について幅広く学修する機会が得られ、結果的に、血管看護を学ぶ包括的なプログラムとなった。
8.	授業科目名【老年看護学実習Ⅰ】3年生後期 ・D病院で新規に臨地実習が可能となった。 ・回復期、亜急性期、急性期、療養過程にある高齢者が老年看護学実習Ⅰの対象となっており、いずれも治療の過程にある。学内での老年看護学概論、老年看護方法論、老年看護学演習の教育内容を踏まえて、実践的に学ぶ環境が整っていると確認できた。 ・患者の病態が複雑であり、情報収集や理解のために教員が支持的にかかわり、病態看護問題関連図がどの事例でも完成度が高く出来上がり、アセスメントが十分に行えていたと判断できた。 ・「豊かな生を支える看護」においては、患者の強みを生かしたアクティビティーや、タクティールケア、生活や療養の指導など、多彩な計画を実施することにつながった。このために実習指導者、病棟管理者、多職種の方々にはご協力いただき、学生の実習を支援していただいた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1999年～現在に至る	日本看護科学学会	
2.	2003年～現在に至る	日本看護管理学会	

3.	2011 年～現在に至る	日本看護評価学会	2022 年より編集委員会委員長 20223 年度学術集会プログラム委員長
4.	2014 年～現在に至る	日本血管外科学会	2014 年よりチーム医療推進委員会委員
5.	2014 年～現在に至る	日本循環器看護学会	
6.	2016 年～現在に至る	日本看護理工学会	
7.	2015 年～現在に至る	日本血管看護研究会	2015 年より代表世話人 2015 年より毎年プログラム委員 2015、2022 年大会長 2024 年より血管看護研修コース運営委員会副委員長、運営事務局、B1 解剖、診断・治療（手術、IVR）統括責任者
8.	2016 年～現在に至る	日本リンパ浮腫治療学会	2016 年より評議員
9.	2018 年～現在に至る	日本老年看護学会	
10.	2019 年～現在に至る	国際臨床医学会	
11.	2022 年～現在に至る	日本静脈学会	2023 年度学術集会プログラム委員
12.		日本フットケア・足病学会	2023 年度九州沖縄地方大会プログラム委員

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名 称	単著・ 共著 の別	発行所、発表 雑誌等又は 発表学会等 の名称	概 要
(著書)					
	なし				
(学術論文)					
1.	2023 年 12 月	深部静脈血栓症予防に 対する看護エコーの活 用可能性	単著	日本看護評 価学会 13 巻 1 号	深部静脈血栓症予防ケアにお ける成果指標として、POCUS（現場 即時検査）としての、ハンディエ コーを看護師が活用する意義につ いて、患者安全の観点から示した。 A4 版 総 63 頁、p27-31 著者：溝部昌子
2.	2024 年 3 月	看護師の触れるケアに 関する文献的研究-ス ウェーデン式マッサー ジ・タクティールケア をめぐって-	単著	西南女学院 大 学 紀 要 VoL28	看護における触れるケアにつ いて、タクティールケア、スウェー デン式マッサージをキーワードと して、歴史、原理、効果の指標、手技、 看護への適用など幅広い資料から 整理して、看護における触れるケ アの意義と手技の習得に関する課 題を提示した。方法の変更、工夫に ついて、実習目標に対する妥当性 から整理して述べた。 A4 版総頁数:46 頁、p1-13 溝部昌子

(その他)					
1.	2024 年 2 月	パネルディスカッション 3 深部静脈血栓症の看護-発症の予防とケア、看護計画	共著	日本静脈学会ニュースレターNo.26	深部静脈血栓症の看護に関するパネルディスカッションの座長を務め、7 演題の発表とディスカッションについて示した。 1 DVT/PE 予防における看護師の役割、2 下肢静脈灌流促進のためのケアの実践、3 DVT/PE 早期発見のための POCUS 活用可能性、4 対象の生活場所に応じた DVT/PE の包括的予防策を担う人材の育成 A4 版総頁数：20 頁、p10-11 <u>溝部昌子</u>,八杉巧
2.	2024 年 2 月	グラフィックレコーディング 「病院と看護の国際化ガイドラインの普及と活用-文化多様性の包摂と医療格差の解消-」	単著	野地科研リサーチミーティング (姫路)	研究課題について、背景・方法等ミーティング内容をリアルタイムにグラフィックレコーディングし、ディスカッションの進行、記録をおこなった。 3×8 メートル <u>溝部昌子</u>
(学会発表)					
1.	2023 年 5 月	看護基礎教育における高齢者看護技術演習の取り組み	共著	第 8 回日本血管看護研究会(於 新宿)	看護基礎教育課程、老年看護学で修得すべき看護技術とその演習方法についての実践報告。 金子由里,<u>溝部昌子</u>,吉原悦子
2.	2023 年 6 月	もしバナゲームを活用したカンファレンスにおける看護学生の学びレポート分析を通して	共著	第 28 回日本老年看護学学会学術集会(於 横浜)	「もしバナゲーム」を実施した学生が記載したレポートから、死生観についての学びについて分析したもの。 吉原悦子,<u>溝部昌子</u>,金子由里,北原一子
3.	2023 年 6 月	深部静脈血栓症のリスク評価と予防対策について-介護老人保健施設の調査結果を通して-	共著	第 28 回日本老年看護学学会学術集会(於 横浜)	介護老人保健施設を対象に、深部静脈血栓症の実態と、予防の取り組みについて質問紙調査を行った結果として、医療機関とのリスク情報の共有が十分に行われていない、行われているとしても紙ベースの一方方向のものであったことを示した。 <u>溝部昌子</u>,吉原悦子,金子由里
4.	2023 年 7 月	パネルディスカッション 3 深部静脈血栓症の看護-発症の予防とケア、-看護計画 深部静脈血栓症ハイリスク患者としての手術経験	共著 座長	第 43 回日本静脈学会総会(於 松山)	外傷後 CRPS を合併し、人工股関節全置換術を受けた体験から、リスク評価、予防、周術期管理、症状観察についての経験と意見を述べた。発表資料の作成、グラフィックレコーディング制作で協力した妻鳥和恵,<u>溝部昌子</u>

5.	2023 年 9 月	シンポジウム患者安全の可視化技術としての看護エコー	単著 座長	第 13 回日本看護評価学会学術集会（於 京都）	末梢静脈穿刺、浮腫看護、排泄ケア、深部静脈血栓症予防に対するエコーを用いた看護師の観察がもたらすものについて話題提供、ディスカッションを深めた。 <u>溝部昌子</u>
6.	2023 年 10 月	教育講演 4 血管看護に活かすエビデンス・診療ガイドラインの活用	単著	第 5 回日本フットケア・足病医学会学術集会九州・沖縄地方会	血管障害患者の看護に際して、ガイドラインやエビデンスを活用することの意義と、SDM への活用方法について示した。 <u>溝部昌子</u>
7.	2023 年 10 月	北九州市民カレッジ あなたの“あし”はお元気ですか	単著	北九州市民カレッジ 西南女学院大学	“あし”にまつわる様々な疾患を紹介し、動脈・静脈の障害による虚血性下肢痛、静脈瘤、静脈血栓についてその予防法や観察方法を解説した。 <u>溝部昌子</u>
8.	2023 年 11 月	An Examination of the Reliability and Validity of the Japanese Version of the Individualized Care Scale (ICS-J) Using an Internet Survey	共著	INC2023 14th International Nursing Conference (Seoul)	ケアの個別性について患者が評価に用いる尺度 ICS 日本語版妥当性を検証し示したもので、構成する二つの調査票とその下位尺度はいずれもクロンバック α は 0.9 以上と高値であった。 Sachiko Iijima, Ariko Noji, Mari Kondo, <u>Akiko Mizobe</u> , Sayaka Koderu, Taisuke Togari, Ritta Suhonen
9.	2023 年 12 月	〈査読あり〉老年看護学教育におけるグラフィックレコーディングの活用—説明マトリックスを用いた学修体験—	共著	第 43 回日本看護科学学会学術集会（於 下関）	老年看護学教育において、グラフィックレコーディングを用いて学生の祖父母の自宅の危険度マップを制作する課題において、その学修体験をマクガイアの说得モデルをもとに構成した質問項目への回答から分析し記述したもの。 <u>溝部昌子</u> , 吉原悦子
10.	2023 年 6 月	KAKENHI 科研費獲得のための計画調書の作成	単著	西南女学院大学外部資金導入促進プロジェクト研修会	科学研究費の申請、獲得、審査の経験から科学研究費核のための申請書の作成方法について本学教職員を対象に説明した。 <u>溝部昌子</u>

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

1.	看護師による POCUS 活用に関する研究-DVT 予防対策と安全なケアへの効果-」	文部科学省 科学研究費補助金 基盤（B）	○溝部昌子、吉原悦子、 （宮田哲郎、重松邦広、 岩倉真由美）	910,000 円
2.	「病院と看護の国際化ガイドラインの普及と活用-文化多様性の包摂と医療格差の解消-」	文部科学省科 学研究費補助金 基盤（C）	（○野地有子、）溝部昌 子	50,000 円

（2） 個 人 研 究

	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
1.	なし			

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等
1.	2023 年～現在に至る	北九州市国民健康保険運営協議会	公益代表委員
2.	2018 年～現在に至る	西南女学院看護キャリア支援センター認定 看護管理者コースセカンドレベル	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等
1.	2018 年～現在に至る	西南女学院看護キャリア支援センター認定 看護管理者研修コース運営委員会	運営委員
2.	2018 年～現在に至る	国際交流委員会	委員
3.	2022 年～2023 年	図書委員会 ・雑誌購読見直し	委員
4.	2023 年～現在に至る	看護学科実習コーディネーター ・「できごとレポート」と報告フローの作成 ・看護学科 30 周年記念新ユニフォームデザ	責任者

		インプロジェクト ・実習オリエンテーション卒業生招聘 ・実習携行品（バッグ、擦式消毒剤）の変更 ・予防接種手帳の Google フォーム提出 ・実習コーディネーター年間活動ガントチャートの作成	
5.	2023 年～現在に至る	看護学科 3 年生アドバイザー ・ゼミ交流会	責任者
6.	2022 年～2023 年	看護学科将来計画プロジェクト社会人基礎力グループ ・3 年生社会人基礎力調査とその報告	責任者